

E013-015

会場：201B

時間：5月27日 14:15-14:30

数値計算による中低緯度 Pi2 脈動の周波数特性

Local time dependence of Pi2 pulsations at middle-and low-latitudes revealed from a numerical experiment

藤田 茂[1], 糸長 雅弘[2]

Shigeru Fujita[1], Masahiro Itonaga[2]

[1] 気象大, [2] 山口大・教育

[1] Meteorological College, [2] Edu., Yamaguchi Univ.

経度方向に一様でない構造をもつプラズマ圏を考慮し、夜側磁気圏に仮想的なパルス電流を流して発生する MHD 波動の伝播特性を数値実験で考察した。その結果、プラズマ圏内空洞共鳴(プラズマポーズが完全反射境界でないため、plasmaspheric virtual resonance と呼ぶのが正しい)の周期は経度に依存することがわかった。この結果は Kosaka et al. [2002]の結果を定性的に説明する。すなわち、中低緯度 Pi2 脈動の周期が経度的に変化しても、プラズマ圏内空洞共鳴を否定することにはならない。